



第二回「平塚らいてう賞」 贈賞式のご案内

日本女子大学では、2006（平成18）年12月8日に第二回「平塚らいてう賞」の受賞者を発表いたしました。

つきましては、「第二回平塚らいてう賞 贈賞式」を下記のとおり開催しますので、ご案内申し上げます。

—記—

【日 時】2006年2月10日(土)14:00～(13:30より受付)

【場 所】日本女子大学 新泉山館 大会議室(目白キャンパス)

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 ・JR山手線目白駅下車徒歩15分（目白駅前よりバス5分）・東京メトロ有楽町線護国寺駅下車徒歩約10分

【贈賞式 式次第】

- 開会挨拶 選考委員長/日本女子大学学長・理事長 後藤祥子
- 講 話 平塚らいてう賞一年の歩み 選考委員/平塚らいてうの記録映画を上映する会
会長 中嶋邦氏
- 前年度奨励受賞者による成果発表 明治大学大学院 丸浜江里子氏
日本女子大学大学院 大島香織氏
- 今年度総評 選考委員/平和・人権教育・研究センター 所長 杉森長子氏
- 賞状・副賞贈呈 顕彰1件 海南友子氏（ドキュメンタリー映画監督）
奨励2件 近藤未佳子氏（東京大学大学院）
菊地栄氏 （立教大学大学院）
- 受賞者紹介 スピーチ
- ご寄付者の顕彰
贈賞式後 15:45から16:30まで茶話会を開催します

【参加費】 贈賞式・茶話会とも無料 定員 100名

【お申込み】 お名前・住所・所属・電話番号・茶話会の出欠を明記の上、ネット申込み、メール、ファクス、もしくは電話でお知らせください。

ホームページ：<http://www.jwu.ac.jp/raiteu/> メール：raiteu@atlas.jwu.ac.jp

電話：03-5981-3175 FAX：03-5981-3164

【この件に関する問い合わせ先(事務局)】

学校法人 日本女子大学 広報渉外課 平塚らいてう賞事務局 TEL:03-5981-3175 FAX:03-5981-3164

「第二回 平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第二回受賞者の選考にあたり、私どもは、候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の諸業績に対して、「顕彰」と「奨励」に値するとの結論に達しました。それぞれのご業績の特色や報奨に値する観点は下記の通りです。

< 顕 彰 >

受賞者：海南 友子氏 （ドキュメンタリー映画監督）

海南氏は、大学で歴史学を専攻し、社会では7年間、報道ディレクターの仕事をして独立し、ドキュメンタリー映画製作を開始した。2001年、『マルデイエム 彼女の人生に起きたこと』、2004年、『にがい涙の大地から』を次々製作し、世界各地のドキュメンタリー映画祭に出品して評価され、平和・協同ジャーナリスト基金奨励(2004年)、黒田清日本ジャーナリスト会議新人賞(2005年)を授与された。氏の作品はいずれも、未だに解決できない戦争と平和の避け難い諸問題を取り上げ、その実情を検証し、問題の重要性を世に訴えている。若い世代に属する氏の発言が映像化され、世に出ることの意義は大きい。さらに氏は、製作映画の基盤となる資料を著作、『地球が危ない』（幻冬社）、『未来創造としての戦後（補償）』（現代人文社）、『ドキュメンタリーの力』（子どもの未来社）にまとめ、映像の背景には真摯な資料研究の存在が不可欠であることを示している。総じて、日本はもとより国際社会で高く評価されるには、氏の持つドキュメンタリー映画製作者としての情熱と技量、優れた歴史感覚、さらに、日本人として女性として、今、考えるべき問題を直視し、「映画」という方法で世に訴える勇気が評価されたのであろう。平塚らいてうが生涯持ち続けた美点と一致するものが、海南氏のドキュメンタリー製作と作品に限りなく見出せる。

< 奨 励 >

受賞者：近藤 未佳子氏 （東京大学大学院工学系研究科建築学専攻）

本研究の優れた特徴は、都市計画と女性の関わりを歴史的社会的工学的視点から探求し、ジェンダーの問題を工学分野において追求するところである。工学分野でのジェンダー研究ともいえ、その斬新性は抜群である。さらに研究の段取りも精密である。たとえば、修士論文で戦前期の東京を取り上げ、ジェンダーと都市政策の研究に取り組んだ後、東京大学21世紀COEプログラムに参加し、戦前期の大阪に焦点を移し、都市環境改善活動と女性の関わりを研究し、今後は研究範囲を戦後期に拡大し、アメリカなど外国との比較研究を構想し、博士論文へと発展させる壮大な研究計画にも期待される。また行政資料、地域・地方資料、女性団体資料、女子大学関係資料など様々な領域の多様な原資料の収集と分析を綿密に行っている点が研究の信憑性を高めている。このことは視点の斬新さとともに評価に値する。

受賞者：菊地 栄氏 （立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科）

現代における出産はあまりにも病院での医療的側面に中心が置かれ、子を産む女性の自然なありようが無視されていることに着眼した点が新鮮である。著書『イブの出産、アダムの誕生』のなかでは、出産の歴史や各国の現代出産事情をふまえ、どういいう出産のありかたが望ましいかを具体的事例をあげながら論じ、出産が人間の自然な営為であることを忘れがちな現代に警鐘を鳴らしている。また菊地氏は出産準備クラスや出産体験の意識調査、生まれたての赤ちゃんの写真展など、多岐にわたる活動を通して女性たちが産むことに関し抱えている問題を捉え、解決しようと努力している。活動と研究の今後の成果が期待される。